テーマ①　市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

テーマに関連したその他の提案

- 学校のみでなく、廃校や空き施設もスポーツの場として活用する
- 健康づくりセンターの運営は定員や料金など民間のマーケティング手法に学び、１回無料券を市民に配布するなど、すそ野を広げる工夫を
- 先進的な他市町村や他国に学び、札幌は健康寿命の長いまちという「売り」をつくる
- 広報さっぽろにもスポーツを楽しむ市民の取組やコラムが紹介されると良い
- 健康づくりに関する情報提供の方法に工夫とバリエーションを！（タウン誌、WEB、SNS、アプリ、ラジオなどを活用・登録制で興味分野や内容が届く仕組づくり）
- 身近な場所の健康づくりスポット（バス停や小さな公園の健康遊具など）を増やす
- 社員や地域向けに健康づくりに取り組む企業にメリットがある仕組（認定など）を整える
- 様々な世代、ライフスタイルの方が集まり健康や運動について話す今日のような場を！
- 市民１人１人が持つ札幌市発行の「健康手帳」をつくり、スポーツイベント等のスケジュール管理、健康の目安等を管理する。企業コラボでポイント集めも！

テーマに関連した協働の視点からの市民の役割

- 色々な世代の人がスポーツ推進委員になる
- 身近な人に話すなど、スポーツの楽しさを伝え、広める
- 健康づくりサポーター制度をもっと活用する
- 半径 500m くらいで誰でも訪れ参加できるコミュニティづくり（区民センター、地区センター、地区会館などの活用も）

テーマ②　市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

テーマに関連したその他の提案

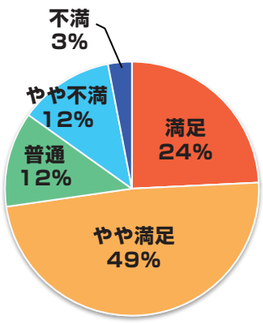
- ウィンタースポーツの気運醸成を民間会社と連携し、オール札幌で展開していく
- 大きな大会の誘致で、市民の関心を高める
- 冬遊び情報を充実させ、リアルタイムで発信していく。SNS を活用する
- 大都市なので何をやっても多くの人が参加するポテンシャルがあるので、新しいことにどんどんチャレンジしてほしい
- 学校や公園（身近な公園・大通公園）などの公共施設の利活用を促進する
- 雪中競歩や冬のマラソン大会など、簡単にできて、楽しめる面白い行事の開催により、冬の健康づくりのためのスポーツへの参加を促進する

テーマに関連した協働の視点からの市民の役割

- ボランティア指導者は将来的に地域で運営できるようにしたら良い
- 行政が地域と学校の窓口となり、地域の高齢者が小・中学校の子どもたちと冬の遊びをする

● 参加者の感想

＜市民参加ワークショップの満足度＞



＜主な感想＞

- 今回のワークショップで様々な情報や意見を聞くことができ、大変勉強になり、市の取組が身近に感じられた。
- 市民の生活に密接な関係を持つテーマだったので、とても勉強になりました。
- より多くの方々が参加できるようにするためには、回数や機会を増やしてみてはどうかと思います。
- 事前にもう少し、施策情報の提供があると良かった。
- 全体でのフリートークがあっても良いのでは？

● 今後の取り組みに向けて

今回のワークショップで頂いたご意見は、今後、市の行政評価の取組の参考としていきます。
また、報告書は平成 27 年 12 月頃に市のホームページに掲載予定です。
なお、各回の資料や記録については、以下からダウンロードできます。

URL:http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/shimin/h27/index.html

● お問い合わせ

札幌市 市長政策室 改革推進部 推進課　電話：011-211-2061

さっぽろ市
02-A03-15-1650
27-2-978

SAPPORO

平成 27 年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

開催結果概要

「スポーツや健康づくり」「ウインタースポーツ」をテーマに、「行政評価市民参加ワークショップ」を開催しました！

札幌市では、行政評価の取組として、「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」による外部評価を行っています。

「市民参加の取組」として、市民目線、市民感覚をふまえる必要性が高いテーマについて、市民の皆さまが意見交換する「市民参加ワークショップ」を実施しました。

開催にあたっては、無作為抽出（くじ引きのような方法）により 20 歳以上の市民 3,000 名に案内を送付しました。応募のあった方から、41 名に参加いただきました。

市民参加ワークショップのようす

ワークショップのテーマは次の２つです。

テーマ①　市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり
テーマ②　市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

市民参加ワークショップの進め方

時　間：9:30～12:30
場　所：エルプラザ　大研修室

第1回　8月30日(日)	第2回　9月12日(土)	第3回　9月26日(土)
「札幌市の取組を知ろう」	**「札幌市の取組を市民目線で評価しよう」**	**「改善の提案などを評価シートにまとめよう」**
・札幌市における事業評価とワークショップの位置づけの説明 ・テーマに関連したこれまでの札幌市の主な取組・施策の説明 ・ワークショップ「質問で理解を深めよう」 ・出された質問に対して市の担当からの説明	・前回のワークショップでの回答の補足 ・ワークショップ「テーマに関して市民目線から見た現状と課題」 ・ワークショップ「市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点」 ・グループ発表	・前回のワークショップの振り返り ・ワークショップ「市民目線で評価する改善点、市民の役割」 ・ワークショップ「行政評価シートにまとめよう」 ・グループ発表

ワークショップのまとめ

テーマ①は４グループ、テーマ②は２グループに分かれて話し合いを行っていただきました。

※ 主な内容について掲載

テーマ①　市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

市民目線から見た現状と課題

● イベントや大会の情報が行き渡っていない

・イベントや講座など、情報をどこで得られるか把握しないと参加できない
・スポーツ大会などのお知らせがたくさんの人に届かない
・健康づくりに関する情報の受け手が受けとりやすい工夫があるとよい
・町内会等小さな単位でのスポーツイベント情報を多くの住民が知らない

● 施設を利用する上でのハードルがある

・スポーツ施設に行くのに利用料や交通費がかかる
・市民がスポーツをする上での支えとなる施設・情報提供が必要
・健康づくりセンターをもっと利用しやすく

● 市民の意識が足りない

・運動できる施設や環境がある反面、運動する機会が少ない
・「スポーツイベント」は気軽さがなく、市民にとってなかなか自分ごととならない
・特に若い人には「健康づくり」という意識があまり無い

● 運動する仲間がいると良い

・１人では運動しにくいため、一緒に参加できる仲間がいるとよい
・健康づくりの取組を行っている団体が継続できるような支援が必要

● 運動していない、できない人へのアプローチが必要

・運動していない人、できない人の理由に着目した支援が必要
・運動していない人の掘り起こし策や病院からの予防的なアプローチも必要

● 子どもが気軽に体を動かす環境が少ない

・公園で球技が不可など、近隣に子どもが遊べる場所が少なくなっている
・子育て世帯が「楽しく」「ポジティブに」運動していると実感できる機会づくりが大切

市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点

関連する事業		事業の評価：良い点	事業の評価：問題点	事業への改善提案
スポーツ推進委員	市から委嘱され地域でのスポーツイベントの企画・運営や実技指導を担う。平成 27 年 8 月現在の委員数は 257 人	・様々な地域向け運動イベントを企画してくれている ・札幌マラソンの知名度が上がる	・もっと市民に身近な活動を ・市民に知られていない ・若い人が少ない	・公募制にしては？ ・スポーツ推進委員の不足に対応するために、体育系の大学とコラボして学生を活用しよう！
スポーツ事業促進助成	市が主催・共催するスポーツ大会や、体育協会やスポーツ少年団等への補助、温水プール子ども無料化事業への補助	・アスリート育成に重要 ・子ども達に恩恵がある ・横のつながりをつくるスポーツ振興を支援している	・マンネリ化？ ・申請が大変だがメリットが少ない ・助成条件が厳しい	・申請の簡略化や、助成条件の見直しをしてほしい
学校開放事業運営	平日の夜間と土日祝日に、小中学校の体育施設を市民に開放。平成 26 年度の開放校数 293 校、利用者数 130 万人超	・身近な施設を安く利用できるのは良い ・誰でも利用できる ・多くの方が実際に活用している	・特定の団体が使用している ・申し込みが面倒 ・運営を継続拡大できるか	・場所の不足に対応するため、プール開放の日数を増やす。その監視のため地域のボランティアを育成する
オリンピアンズキャラバン事業	町内会や体育振興会等が主催する地域のスポーツイベントに、オリンピック選手等のトップアスリートを派遣	・トップアスリートと触れ合える機会は必要であり、継続してほしい ・地域レベルのイベントで活用できる事業	・町内会や体育振興会のイベントだけでは参加人数が少ない ・あまり活用されていない	・事業が活用されるよう、幅広いイベントで取組を行ってほしい
ウォーキング実践指導ボランティア研修	各区から受講者を募り年１回全市単位の研修を開催。平成 19 年から開始し、延べ受講者数 431 人	・市民主体の運営によるウォーキング大会の実施につながる	・活躍する場が少ない ・受講者が少ないのではないか ・若い世代の参加が少ない	・負担が軽くなるような運営方法を研修してほしい
市民交流ウォーキング大会	毎年開催区を決め全市から約 300 名が集まり、体力に応じたコースを歩く。ボランティア研修受講者を中心に運営	・市民主体で運営している ・ウォーキングを通じ、各区の見どころを知れる点が良い	・人気があり先着順のため、参加できない人が多い ・開催案内の情報が足りない	・回数を増やして、様々な年代が参加できるように
ウォーキング推進キャンペーン事業	市民と協働でのウォーキングマップの作成、地下鉄車両にポスター掲示、地下鉄階段に健康メッセージとカロリー表示など	・マップはとても良い ・わかりやすくて健康を意識するきっかけになる ・階段のカロリー表示はとても良い取組	・マップが知られてないのが残念 ・階段の健康メッセージは記載内容が更新されないと飽きてしまう	・距離やカロリーの表示をチカホにも ・ウォーキングの「事後」の声を「生の声」として PR する ・階段のメッセージを市民から募集
健康づくりサポーター等派遣事業	健康づくりに取り組むグループや町内会に、健康運動指導士や歯科衛生士等の専門家を派遣。平成 26 年度派遣回数 69 回。	・良い取組なので、もっと事業を拡大してほしい	・派遣実績が少ない（特に若い人のグループへの派遣が少ない） ・周知不足が惜しい	・運動のステップアップのトータルコーディネート支援の仕組を ・サポーターの人数を増やして

テーマ②　市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

市民目線から見た現状と課題

● 雪遊びを含め気軽にウインタースポーツをする環境の不足

・多くの人、多世代が楽しめるウインタースポーツの種類が不足
・身近な施設や空間の不足
・雪遊びや雪かきなど、遊びを活用する視点が大切
・冬に体を動かすモチベーションづくりが不足している

● お金がかかる　・施設の利用料金や交通費、道具が高い

● 取組の PR や指導者が不足

・取組の PR が不足している
・指導者が不足しており、基礎の技術が習得できず、楽しめない

市民目線で評価する札幌市の取組の良い点、問題点

関連する事業		事業の評価：良い点	事業の評価：問題点	事業への改善提案
ノルディックスキー札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業	小・中・高校のスキー学習にインストラクターを派遣。雪まつり会場での歩くスキー体験、公園等での雪遊び出前体験会など	・他県にアピールになっている ・無料体験、出前体験の取組が良い ・専門指導者がスキー学習の指導をするのは良い	・魅力発信、PR は十分ではない ・身近な環境で雪に親しむ取組からのステップアップが大切	・いろいろな「雪遊び」を伝え、体験の機会を増やす ・北欧などの冬の遊びを取り入れるため外国人の参加を促進する
地域スポーツマスター活用事業	中学校のスキー学習に高齢世代を含む地域住民を指導者として派遣。モデル校５校に平成 26 年度派遣回数 36 回、延 80 人	・資格にこだわらずボランティア指導者になってもらっているのは良い	・市よりも学校や地域でボランティア募集に取り組む方が広がりが出るのではないか	・募集の他、ボランティア保険などの支援を充実させる ・スポーツだけでなく、冬の遊びを伝える「遊びマスター」がいると良い
カーリング普及事業	カーリング場の常駐指導員が初心者に技術指導。平成 26 年度利用者 1,097 人。子ども向け指導プログラムも実施	・通年型のカーリング場を建設したことは評価できる	・PR が足りない ・５シートのカーリング場は小さい ・夏は氷の維持が高コストとなる	・講習会を増やしては